

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年七月度 入選句（投稿総数二千七百九十八句・一般投句数七百二十四句）

特選

薔薇色の人生とやら薔薇を買ふ

栃木県那須塩原市 垣内 孝雄

人生ばら色とかいう言葉よく使われるが広辞苑によると、幸福・喜び・希望に満ちた状態とある。事の大小はともかくも人それぞれ幸福・喜び・希望に満ちる時、満ちた時の経験はある筈だ。それでは薔薇でも買って薔薇色の人生とやらを味ってみるかとの洒落がこの句にあつて面白い。

百点のとれない人生 蟬の殻

長野県下伊那郡 長沼 まさし

蟬の殻には、この世に出るときに力強さが残っていて好きだ。人生も力いっぱい生きることが大切だがすべて思う通りになるとは限らない。ましてや百点は至難の技であるがそれに向つて進むことにこそ人生の意義と割り切つて行かねばと蟬の殻の力強さを見ながら思うこと。

父の日と来し子に父のそつけなく

不破郡垂井町 小畑 美智子

折角来て呉れているのに無愛想な父。内心はうれしくても表だつてちやほやされることに照れてそつけなく振る舞つてしまうのである。父の日は母の日ほど尊重されないのも案外こんなところに要因があるのかもである。母の日があるから、父の日がないのは不公平とかで存在するのであればなくてもよいという父は世にたくさんいるのではないかと思う。

秀逸

夏燕 改札口から旅立てり

不破郡垂井町 北村 廣美

新入生 慣れぬ背中の重さかな

大垣市 寺澤 弘

足るを知る ことの幸せ 小判草

養老郡養老町 田中 紫香

浮かぶものくるくるまはる 噴井かな

大垣市 佐藤 すみ子

町中が朝から動く 溝 浚へ

大垣市 大西 誠一

余生にもいろいろありて 葱坊主

大垣市 鶴田 信子

手をとりにて親子のくぐる 茅の輪かな

大垣市 久保田 悟義

梅雨深し内緒のはなしは糸電話

大垣市 安福 けい子

来し方に迷ひも少し 半夏生

兵庫県神戸市 岸下 庄二

入選

石蹴って母に背きし夕焼雲	東京都世田谷区	関戸 信治
母の日の焦げ目のついたオムライス	兵庫県尼崎市	佐々木 啓川
名水の湧く声みどり夏木立	安八郡神戸町	高橋 泰
横顔の似ているふたり柿若葉	大垣市	平野 きぬよ
長雨の泥撥ね上げし茄子挽ぐ	大垣市	村田 通夫
梅花藻が水の流れに弓なりに	大垣市	高井 光子
蜘蛛の囀の凶形のこして雨しづく	大垣市	佐竹 余史美
蜘蛛の囀の破れしままに風揺らす	不破郡垂井町	富田 実郎
衣を縫う針の軋みや梅雨ごもり	大垣市	安田 むつこ
雲の峰背中ゆらして振るタクト	大垣市	平野 ヒサエ

入選

十葉に埋めつくされ地蔵尊	不破郡垂井町	竹嶋 富美子
網戸あけ風まつすぐに通しけり	大垣市	日比野 友子
頬笑みを何時も忘れぬ白日傘	大垣市	多和田 一徳
香り立つ茅の輪くぐりし車椅子	大垣市	坪井 克枝
熱き茶を入れて二人の梅雨ごもり	不破郡垂井町	児玉 信子
十年の写経 柩へ額の花	岐阜市	伊藤 瑞実
洗濯物ゆらりともせず梅雨曇り	大垣市	小林 恵子
十葉を干す知らぬ間に年寄りて	静岡県藤枝市	山本 紫苑
蛩とぶ水音闇を深くせり	不破郡垂井町	高木 巧み
水張田に影絵のごとき伊吹山	大垣市	上野 愛珠

選者吟

魂を爪に残して蟬の殻

青志